

式 辞

今年の春はかなりのあわてん坊のようです。満開だった桜はすっかり葉桜になり、今は、一年生の皆さんがこの間まで通っていた小学校にもあった「あいりちゃん」フランスギクが、真っ白な花を咲かせました。そんな季節が移り変わる中、本校の入学式を挙行いたしましたところ、蟹江警察署弥富幹部交番長大石邦夫様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を賜わり、新入生のスタートを祝福していただくことができました。高いところからではありますが、心よりお礼申し上げます。

「ありがとうございます。ありがとうございました。」

新入生の皆さん、

「ご入学、おめでとうございます」

弥富中学校は皆さんを心より歓迎します。朝、真新しい制服に袖を通した気持ちはどうでしたか。「あいりちゃん」の咲く花壇の横に貼り出されたクラス分けの名簿を見た時の気持ちはどうでしたか。三月二十日にそれぞれの小学校の卒業式に出席させてもらいましたが、その時もしっかりとした姿勢でした。今日はさらにその姿が大きく見え、「中学生になったぞ」という気持ちはひしひしと伝わってきて、とてもうれしく思います。どうか、今のその気持ちを忘れないでください。

保護者の皆様、

「お子様のご入学、誠におめでとうございます」

ます」
心からお祝い申し上げます。本日、皆さま
方の大切なお子様を確かにお預かりいたし
ました。今日から三年間、その責任を果た
すために、教職員一同、努力を惜しまない
覚悟でいます。

中学校生活は九年間の義務教育の最終段
階です。卒業後はそれぞれが決めた道へと
自分の力で歩まなくてはなりません。長い
ようであつという間の三年間です。私たち
は、さまざまな教育活動を通してその力を
つけさせるよう取り組んでまいります。そ
して、一方で、社会の一員として、弥富市
の次の時代を担う一人の大人として、集団
としての規律を守り、時には我慢をしなく
てはならない時もあることも指導させてい
ただくつもりです。保護者の皆様方のご理
解、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、始業式も兼ねていきますので、在校生のみなさんにもお話します。それぞれ、「進級、おめでとうございます」

二年生も三年生も、ついこの間の修了式に比べると、とても頼もしく見えます。かわいい後輩たちを温かく、そして優しくリードする先輩としてよろしくお願いします。

さて、今日から新しい学年がスタートするわけですが、ここで、改めて「校訓」について伝えたいことがあります。弥富中学校の校訓を知っていますか。生徒手帳にちゃんと書いてありますし、この体育館にも掲げられています。こちらです。「大和」「誠実」「勤勉」「明朗」と四つの言葉が並んでいます。教室には、誠実是人助け、勤勉はそうじ、明朗はあいさつ、と具体的な行動目標が掲げてあります。校訓が四つあるの

にそれは三つしかないことに気づいたと思います。実はこの四つの中で「大和」は他の三つの上にあるものなのです。この校訓がつくられたのは今から六〇年前です。昭和三十三年に、弥富町の「弥富中学校」と鍋田村の「鍋田中学校」が合併して、新しい「弥富中学校」ができました。その時に、「二つの中学校が互いに仲良く発展していくように」という願いを込めて、「大きく和む」と書いて「大和」を最も重要な目標として校訓としました。

戦国時代の有名な武将に毛利元就という人がいます。この人は、自分の三人の子どもを呼び、一本の矢を取り出しました。そして、こうやって折って、「一本の矢は簡単に折れてしまいが、三本にしたら簡単に折れるものではない。お前たち三人も力を合わせてこの家を盛り立てるように」と話したそうです。これこそが「大和」です。

学校には三つの学年があります。それぞれの学年がその役割を果たしてまとまったとき、それはとてつもなく大きなエネルギーを生み出します。部活動がそうです。学
校祭もそうです。そして、今この瞬間も、
三つの学年でしっかりと雰囲気をつくって
くれています。

もう一度、一年生のみなさんに話をしま
す。三本の矢が強く折れないことは分かり
ましたね。では、四本の矢はどうでしょう。
もつと強いですよ。皆さんは、桜小学校、
大藤小学校、栄南小学校、そして日の出小
学校と四つの小学校から集まってきた子た
ちです。四つの小学校から集まってくる中
学校はそんなに多くはありません。一本で
もない、三本でもない、四つの力が、今日
この弥富中学校で一つになりました。

皆さんの成長と活躍を大いに期待し、式
辞とします。

平成三十年四月五日

弥富市立弥富中学校長

高山典彦